

# 2019 WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 8 (7/25)

大会2日目。天気予報でサンダーstormが予報されていたため、全体スケジュールを1時間繰り上げての大会運営になりました。選手たちはアナウンスを受けた昨日夕方からスケジュールを組みなおしましたが、大きな混乱もなくレースに挑みました。

本日の動き出しは日の出前。Nathan Benderson Parkも真っ暗でした。



## トレーニングクルー



床養生した日本チームテント内でストレッチを行うBW2-クルー。左から西田選手(明治大学)、高野選手(立命館大学)



BM1x 櫻間選手 (NTT東日本)

## BM2x 予選

スタートから頭を押さえられる苦しい展開。特に1位ニュージーランド、2位スイスには大きく出られる。3位までがセミファイナルA/Bに進出できるので、3位デンマークに食らいつきたいところ。500mを1位ニュージーランドからは6.27秒差、3位デンマークとは1.98秒差で通過。第2クォーターに入り日本の艇速が若干落ちたところで一気に差が開き始め、1000mでは3位デンマークとの差は5.48秒差に開いてしまう。これ以上は離されたくないところであったが、差はさらに開き1500mでは11.59秒差。ラストクォーターも状況を変えられずに4位でゴールし、明日の敗者復活に回るようになった。



出艇するBM2xクルー

写真左からS遠山選手(日本体育大学)、B木村選手(日本大学)



必死に追いつけるBM2xクルー。敗者復活での巻き返しが期待される。



## BLW2x 予選

スタートからデンマーク、中国が飛び出し、アメリカ、日本、メキシコがそれを追う展開に。500mの通過は1位で通過の中国から5位で通過のメキシコまでの差が3.61秒差と若干の差はあるものの今後の展開でレースが進む。第2クォーターに入り先頭を走る中国に引っ張られる形でデンマーク、アメリカと日本の差が開き始める。何とか踏ん張りたい1000mでは1位中国とは4.93秒差に開くものの、第3クォーターで日本が底力を見せ何とか戦線に踏みとどまる。ラストクォーター、勢いがなくなってきた1位中国に対し、デンマーク、アメリカが猛烈な巻き返しを見せ逆転する。日本はこの2か国の流れにはついていききれずに4位でゴール。明日の敗者復活に回るようになった。



吉田コーチと出艇前のミーティングをするBW2xクルー。



出艇するBW2xクルー。



ラストクォーターで必死の追い上げを見せるBLW2xクルー。左からS高島選手(明治大学)、B角谷選手(立教大学)



BLW2xのレースが終わってしばらくすると、西の空が暗くなり冷たい雨が吹きはじめ、サンダーstormの兆しが見え始めた。日本代表チームはBLW1xの出艇準備を中断し、BLW1x艇を空いているアームに固定したところで、全てのレースを中断する旨のアナウンスがOCから発表された。結局この後レースは5時間30分中断されることとなった。

左の写真は、西側(海側)から雨雲が迫り来る様子。右の写真は避難場所の一つであるアスリートレストランに避難してきた人々の様子。



この日からテント内に厚手の発砲スチロールの板が敷き詰められ、選手がリラックスしてストレッチ等を行うことが出来るようになった。アメリカに在住経験のあった中川チームドクター(右の写真)の発案で実現できた。

### BLW1x敗者復活

中断の間に一度ホテルに戻りリセットをした。OCからレース前の計量の記録は活かされる旨の連絡などが入っていた。

3位までがセミファイナルA/Bに進出できるレース。スタートからポルトガル、オーストラリアが飛び出し、日本は追う展開に。500mの通過は2位モルドバ、3位ウルグアイと並ぶように3位で通過。ここから艇速を伸ばしていきたいところだが、ウルグアイにかわされ4位に転落。1000mを3位ウルグアイと、2.26秒差の4位で通過。何とか差を詰めていきたいが、中々詰まらず1500mではウルグアイにかわされ3位に転落したモルドバとの差は逆に3.23秒差に広がる。ここから上げて行きたいとこ六だったが、上げきらず4位でゴール。明後日のCファイナルに進むことになった。



吉田ヘッドコーチとミーティングをする四方選手(鹿屋体育大学)



ラスト200m地点で必死に追い上げを図る四方選手(鹿屋体育大学)





## BM1x敗者復活

セミファイナルA/Bに進出するためには2位以内に入ることが条件になる。スタートから一気に飛び出した中国を追う展開で500mを2位で通過。第2クォーターに入ると、アメリカがじりじりと追いついてきて、1000mをアメリカと並ぶように3位で通過。ここから勝負を仕掛けたいところだったがうまく艇速が伸びずじりじりと離され苦しい展開で1500mを2位アメリカと7.09秒差の3位で通過。ラストクォーターで必死に追いつけるも、2位に転落した中国をとらえきれずに3位でゴール。明日のセミファイナルC/Dにまわることになった。



武田サポ<sup>®</sup>ートコー<sup>®</sup>チに見送られるBLM1x新井選手(慶應義塾大学)



ゴール前、必死に追いつけるBLM1x新井選手(慶應義塾大学)